

中井町オンデマンドバスと路線バスの今後の対応策について

1. はじめに

■ まちの価値を高める（まちづくりに貢献する）地域公共交通をめざして

まちの価値を高めるために地域公共交通の導入効果を発揮させていくかが重要となってきます。自家用車を運転できる人は、少くとも便利で公共交通が目の前にあっても見向きをしないのが現状です。このような意識を変革させることは簡単なことではありません。

高齢化が進行し自動車を運転しない、運転できない高齢者はさらに増加することが予想されます。障がいや年齢に関係なく、誰もが安心・快適に移動できる仕組みを多様な関係者により協議していくことが求められています。

■ 地域公共交通のマネジメントとして求められるもの

✦ 利用者の安全

利用者の安全が損なわれていないか。計画と現実の間には乖離が乗じることがあるため、運行後、改めて現場を確認することが求められます。まちも人の行動も常に変化しているため、運行エリアや運行時間、乗降場所など定期的に確認し、安全性、定時性確保に向け、無理な運行を強いることがないよう確認が必要です。

✦ 目的に沿った運営

オンデマンドバスがまちづくりの目的に沿って貢献しているか。利用状況、利用による波及効果などがまちづくりの目標達成を後押ししているか確認する必要があります。

✦ 効率的な運行

最少の経費で最大の効果をあげるためには、無駄を省き、利用を促すことが必要です。利用が少ない地区や過剰な運送などは、関係機関と協議の上、部分的に見なおすことが必要です。一定期間を経過後、運行計画をより効果的、効率的なものへと改善を重ねることが必要です。

■ 地域公共交通の点検段階「CHECK」の内容

評価の視点		評価内容
安全面	危険箇所の把握	運行エリア、経路、乗降場所など危険に感じることはないか、運行事業者、乗務員から確認を行う。さらに乗客に対する利用実態調査などを通じて危険箇所を把握する。
利用面	目的どおりの利用の確認	計画で想定した目的どおりに利用されているか確認、評価を行う。利用者数、利用者層に対して計画とのギャップはないか、要因や課題を把握する。
効率面	計画とのかい離の把握	支出と収入に関して計画とのかい離の有無を確認し、乖離している場合はその要因を把握する。
満足度	利用者、非利用者の満足度の把握	利用者に対して利用実態調査を行い、オンデマンドバスに対する満足度、要望などを把握する。さらに利用しない住民に対しても利用実態調査を行い、利用しない要因などを把握する。

■ 地域公共交通をよりよいものとするための整備方針

まち全体の地域公共交通は、民間の交通事業者が運営する既存の路線バス等によって支えられています。これ以上の利便性の低下を招かないよう既存の地域公共交通を最大限活用するとともに、交通事業者だけではカバーしきれない部分を行政、住民・利用者などが補うことでつなかりを改善し、町の交通網全体を機能的なものとすることをめざします。

(1) 路線バスの役割

路線バスは、鉄道のない地域での主要な交通機関であり、駅への端末交通手段として重要な役割を果たしています。

町内を走る路線バスは、すべて複数市町間を運行する系統であり、利用者は町民だけでなく不特定多数の人が利用する輸送密度の大きい地域間幹線系統です。鉄道駅や拠点施設を結ぶ広域的な移動を支える役割を担っており、採算性が確保されていない系統であっても生活交通ネットワークとして必要な幹線系統であるため、バス事業者と自治体との協働により維持・改善に努める必要があります。

No.	系統	起点	経由	終点	備考
1	秦 60	秦野駅南口	井ノ口・団地中央	二宮駅北口	
2	秦 63	二宮駅北口	四ツ谷・南ヶ丘センター	秦野駅南口	深夜バス
3	秦 70	秦野駅南口	境入口	二宮駅北口	
4	秦 91	秦野駅南口	南が丘センター・団地中央	二宮駅北口	急行バス
5	平 75	秦野駅南口	井ノ口・金目駅	平塚駅北口	
6	平 76	秦野駅南口	上井ノ口・神奈川大学	平塚駅北口	
7	秦 92	秦野駅南口	日赤病院前・上井ノ口	比奈窪	
8	秦 96	秦野駅南口	日赤病院前・グリーンテク	比奈窪	
9	秦 15	秦野駅	畑中・震生湖・比奈窪	万年橋	
10	二 30	二宮駅南口	押切・下小竹	比奈窪	
11	国 01	国府津駅	押切・五所宮	比奈窪	

H28.2 現在

(2) オンデマンドバスの役割

町が運行主体となり、既存の路線バスではカバーしきれない住民の移動手段や交通空白地区の解消をめざして運行されています。利用者の需要(デマンド)に応じて運行するシステムで、定時定路線ではカバーできない需要に対応するものです。人口の集積が低く、需要が点在している本町においては、路線を定めず町内全域を運行エリアとして運行しています。路線バスを補完する支線的な輸送を担うのがオンデマンドバスが本来の役割であり、町内の近距離利用(最寄りのバス停や乗り継ぎポイント)により、路線バスとの役割を明確化、連携することで地域の公共交通を支える必要があります。

2. 路線バスを取り巻く課題

① 比奈窪バスターミナルの路線バス間の乗り継ぎについて

小田原市橘地区、中村下地区の住民・利用者から、小田急線を利用するために秦野駅に行きたいが比奈窪バスターミナルでの乗り継ぎが悪く、秦野駅周辺に駐車場を借りて車や原付バイク等で直接向かう、車で送迎してもらおう、または小田原駅廻りで小田急線を利用するなど不便を訴える声が多い。

Cf. 資料 3-2 比奈窪バスターミナルのバス乗継所要時間

② 比奈窪バイパス開通による路線の冗長化

比奈窪バイパス開通に伴いバスルートが一部変更になり、二宮駅北口発～比奈窪行きのバスが才戸方面に少し行ったところから折り返すように旧道に入り比奈窪バスターミナルに向かうことになり冗長化している。

③ 比奈窪バスターミナルの最適性

新しく整備された道路には中井役場前バス停が移設されており、役場周辺の施設利用者に利用されている。一方、秦野駅南口発～比奈窪行きの場合は、今までどおり比奈窪バス停が最寄りの停留所となっていて比奈窪バスターミナルの最適性が課題となっている。

④ 比奈窪バスターミナル地権者からの返還申出

比奈窪バスターミナルは地権者の協力のもと借地として使用してきたが、地権者の意向により賃貸借契約を更新しない旨の申出がされている。

課題に対する対応策

- 乗継を考慮した利用者目線のダイヤ
- 暫定的な代替地の検討（例：中井中央公園、総合グラウンド）
- 役場周辺拠点整備と連動した新バスターミナルの検討
- バスターミナルの必要性など抜本的な検討
- 二宮駅～比奈窪経由～秦野駅のバス路線の検討
- 住民が乗って支えるという意識の醸成

3. オンデマンドバスを取り巻く環境

① 乗降ポイントの整理

新設要望のある乗降場所の安全性、妥当性などを見極め追加を行うとともに、一度も利用されなかったことがなく、住宅もまばらで代替可能なポイントについては整理を行う。

また、井ノ口複合商業施設の今秋オープンにあわせ、これまで特例的に町外目的地としていた商業施設を廃止し、町内の商業施設を目的に追加することで移動の短距離化、効率化をめざす。

区分		乗降場所	代替地及び設置・廃止理由
町内	新設	井ノ口複合商業施設	買い物利用者の集約化、高効率化
	新設	井ノ口 3827 加々見宅前	地域住民の新設要望
	廃止	足柄上消防署中井出張所	ほたるの家
	廃止	井ノ口第一青少年広場	宮原GS 23-4
	廃止	藤沢GS 14-4	藤沢バス停
	廃止	中井美化センター	周辺に住宅地なし
	廃止	富士見台ふれあい農園	周辺に住宅地なし
町外	新設	南が丘センターバス停	ヨークマート西大竹店
	新設	団地中央バス停	マックスバリュー二宮店、西友二宮店

※関ノ上小公園・松本下GS 2-4は周辺が住宅地で隣接のポイントと距離があるため存続

※久所入口バス停は路線バスとの乗継を考慮して当面の間存続

② 料金体系の見直し

オンデマンドバスが支える役割を踏まえ、最短距離で最寄りのバス停または乗継ポイントまで移送を主目的に、また、町域をまたぐ広域移動については路線バスが担う役割を明確にするための料金体系の検討を行う。

	町内	町外
現行	200円	300円
見直し	乗継運賃を踏まえた減額検討	役割明確化による増額検討

③ 利用者ニーズの高い秦野駅への乗入れ検証

既存のバス事業者に影響を及ぼさない範囲で秦野駅への乗り入れ需要を検証する。具体的には、路線バスが運行されていない時間帯を「交通空白時間帯」として、昨年3月に町内のバス路線再編により交通不便地区となった地域を対象に震生湖線からの駅乗り入れ実験の可能性を検討する。

④ オンデマンドバスの運行継続判断基準の検討

日々の住民の移動を支える持続的な移動手段であるか、今後のあり方を定めるために運行継続の判断基準をつくり検証を行う。